

## <図書館本館：1960～2012>

1960年の建築当時の案内パンフレットによると、図書館本館は総床面積 3,060 m<sup>2</sup>、鉄筋コンクリート造 3 階建てで中 2 階付きで、自由閲覧室や書庫のほか、映写室、暗室、複写室、録音室が設けられていた。設計は「代々木第一体育館」などで知られる丹下健三研究室であった。当時の開館時間は平日 8:30 から 17:00、土曜は正午までの利用だった。

図書館の入館は、メーザーライブラリーの南側から大階段を上って屋上庭園を通り、入り口で学生証を提示して利用した。当時は、退館時に受付で持ち物検査があり、脇に本を抱えていてもわかるように、蔵書印も現在のものより大きかった。

入館するとすぐに数台の目録カードケースがあり、立教大学では、辞書体目録といって、書名目録・著者名目録・件名目録カードを一体化した目録配列方法を採用しており、現在の OPAC のフリーキーワードによる簡易検索に似た方法がとられていた。

開架式の図書館がまだ多かった当時の大学図書館のなかでは、開架スペースが広くとられ、およそ半数の蔵書を自由に書架で手に取ることができたので、外部からの見学者も多かった。

1960～70 年代にかけては、日本経済の高度成長期のなかで学生数も増え、一般教育部、文学部、経済学部、法学部、社会学部、理学部などの読書室や資料室も蔵書を増加させていった。

図書館本館の開館当時の蔵書 15 万冊は、1980 年には 30 万冊となってほぼ満杯の状況となり、また各学部学科の資料室等でも図書があふれる状態となり、新座キャンパスに新座保存書庫（70 万冊収納）が建てられることになった。

メーザーライブラリーの時代から作成してきたカード目録も、1983 年に図書情報のコンピュータ入力が始まりカードを併用して運用されていたが、1995 年に文科省の学術情報システム NACSIS-CAT に参加してカード目録を廃止した。1990 年代には、CD-ROM などの電子媒体、インターネットの普及、データベースの提供など、時代に対応したサービスが必要となり、図書館本館に隣接する 7 号館にメディアライブラリーを設置することになった。

2001 年から 2002 年にかけて、人文科学・社会科学・自然科学系図書館が開館してからは、図書館本館は学部学生用図書館として親しまれてきた。2008 年度以降は「学生利用支援サービス」に力点を置き、授業内情報検索講習会、データベース講習会、図書館活用講座、ラーニングアドバイザー制度を始めた。

図書館蔵書は 2011 年度末には池袋キャンパス（新座図書館、新座保存書庫除く）だけで 103 万冊に達した。2011 年度の利用統計によると、池袋キャンパス（学系図書館を含む）の全入館者数は 75.6 万人、館外貸出冊数は 15.8 万冊、学校社会教育講座、総合研究センターの蔵書も含めて 103 万冊あり、池袋キャンパスの蔵書は、すべて「池袋図書館」に受け継がれた。



## <人文科学系図書館：2002～2012>

各学部・学科の図書館業務と蔵書は、文学部図書室、経済学部図書室、理学部図書室、数学科図書室、社会学部図書室、法学部図書室等に分散して運用されていたが、2001年から2002年にかけて各学部図書室は3分野の学系図書館に統合されることとなった。

人文科学系図書館も他の学系図書館と同様に、研究棟のなかに設置され、教員研究室に隣接した図書館であった。旧文学部図書室と各学科読書室の業務を引き継いで設置され、文学部の6号館研究棟を全面的に改修し、1階および5階、また別棟の16号館スペースに資料を配置し、図書約21万冊、製本雑誌1.6万冊（継続受入中の雑誌は和洋合わせて約1,500タイトル）を収蔵した。図書は分野ごとに排架され、書庫も特別書庫以外は開架方式だった。

文学部は2012年現在、キリスト教学科、文学科、史学科、教育学科の5学科と8専修の分野に分かれ、ことに研究資料は資料形態や使用言語もさまざまである。特別書庫には、江戸時代の和装本や中世の洋古書が配架されていたが、これらの資料も池袋図書館の貴重書庫等に移管された。

2011年度の利用統計では、年間入館者は17万人、貸出冊数は1.9万冊だった。

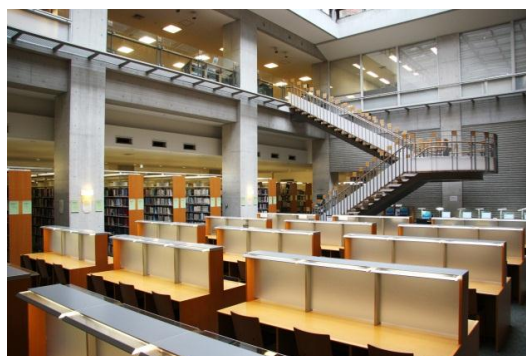


## <社会科学系図書館：2001～2012>

2001年10月、社会科学系図書館が、社会科学系学部の研究用図書を主な蔵書とする図書館として、旧12号館を改築して設置された。

社会科学系図書館の床面積は図書館本館と同規模の3,300㎡、収蔵可能冊数は38万冊と本館よりも多く、教員・大学院生の利用を主体にした研究図書館であった。年間受入図書冊数も、社会科学分野の出版量を反映して学系図書館のなかでも最も多く、また立教としては初めて夜間開講の大学院が設置されることになったため、本館や人文科学系図書館とともに授業時間に合わせた日祝開館・夜間開館が実施されることになった。

近年では、学生の図書館座席利用のニーズが非常に高く、池袋図書館工事の際にもマキムホールに臨時の学習スペースが設けられるなど、図書館全体での学生の座席数の確保が急がれていた。2011年度の利用統計では、年間入館者約23万人、貸出冊数約16万冊、所蔵調査3,300件、書庫出納（学部学生）3,200件があった。



## <自然科学系図書館：2001～2012>

自然科学図書館は、2001年4月にそれまでの理学部図書室と数学科図書室を、4号館理学部の2階部分に統合してスタートした。自然科学系分野（数学、物理学、化学、生命理学）に関連した研究用資料を中心に、図書を4.8万冊、製本雑誌を3.7万冊、継続受入れ中の雑誌は和洋合わせて約260タイトルを所蔵していた。

自然科学系図書館では製本洋雑誌が多く所蔵され、4号館1階には3ヶ所に書庫が設けられていた。図書館の閲覧座席は48席と学系図書館のなかでは最も小さく、アットホームな雰囲気と自然科学系に特化した図書館として理学部学生や教員に親しまれた。



## <新座保存書庫：1982～>

新座保存書庫は、1982年に、大学の施設としては初めて新座校地に設置された。平屋に見えるが地下1階、地上2階の3層構造で、70万冊が所蔵可能である。大型書籍などを多く所蔵するため、2012年現在、蔵書50万冊で書架はほとんど余裕のない状態である。

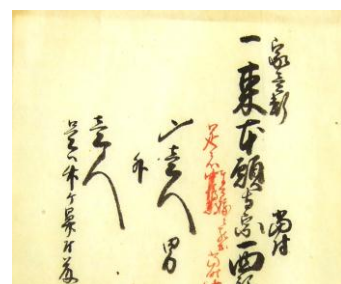
利用者は原則的に直接来館利用することがなく、保存機能のみの特殊な図書館（書庫）であり、遠隔地保存図書館としてユニークな存在となっている。池袋キャンパスとの定期便が毎日運行され、年間約12,000冊の出版年代の古い資料や大型本などを各図書館に搬送している。池袋から取り寄せ依頼のあった資料は、週末を除いて翌日には各カウンターに届けられる。

また、新座保存書庫には、立教大学図書館の蔵書の特徴づける個人文庫が所蔵されている。幕末から明治維新にかけての日本近代史資料を集めた「大久保利謙文庫」、戦後の日本憲法成立に関わる資料も含まれる「宮沢俊義文庫」、日本キリスト教関係全般・キリシタン史・讃美歌研究資料を収集した「海老澤有道文庫」、西洋中世史学やオーストリア史に関する「ドープシュ・パッツェルト文庫」など約6.6万冊が所蔵されている。

そのほか聖公会関係資料約4,600点、（一部は池袋キャンパスで複本を所蔵）、昭和30年代から主に文学部日本史研究室が収集した武蔵、信濃、越後などの地方（じかた）文書コレクション約7万点（145件）が収蔵され、図書館ホームページから内容を検索することができる。



Times紙のバックナンバー(1900～)



西松家文書より

## <新座図書館 1998～ >

新座キャンパスには、約 102,000 m<sup>2</sup>の校地に約 4,900 名の学生が在籍している。新座校地は 1958 年に東武鉄道から立教学院に寄付されたもので、立教高校が 1960 年以後利用してきたが、1990 年に 1 年生の週 1 日利用が開始され立教大学学生の利用が始まった。

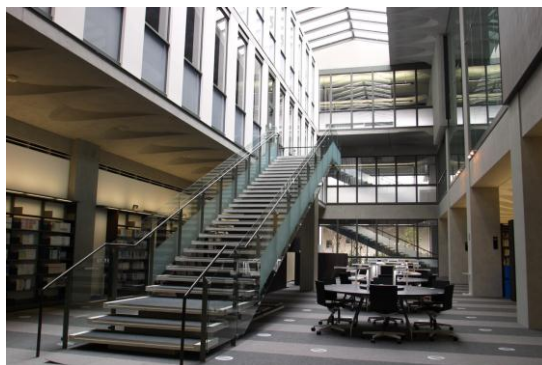
1998 年に新しく観光学部・コミュニティ福祉学部が設置されてから、本格的に新座校地の利用が始まるとともに、5 号館 1・2 階に「武蔵野新座図書館」が設置され 2 学部の研究と学部学生の学習・教育を合わせた総合図書館としてサービスを開始した。

武蔵野新座図書館は 2006 年の現代心理学部設置を契機に図書館を増改築して 5 号館と 6 号館の 1 階部分からなる図書館となり、名称もキャンパス名の変更に伴い「新座図書館」と改称した。新座図書館は、原則的に池袋の図書館機能と同様のサービスを行っており、学習支援の面においても授業内情報検索講習会、図書館活用講座、ラーニングアドバイザーによるサポート等池袋と同様に実施している。また、開館当初から池袋にさきがけて「自動書庫」を導入することで、余裕のある空間を確保し新座らしい雰囲気も作り出している。

新座図書館は池袋の学系図書館と同様に研究棟とも建物を共有しており、研究図書館としての性格も持っている。観光学部は、日本で初の観光学(tourism)を研究分野とした学部で、新座図書館は世界観光機関(UNWTO)の depository library(寄託図書館)機能も担っている。コミュニティ福祉学部では社会福祉・地域政策関連分野にスポーツウエルネスを加えた特色ある教育・研究を行ってきた。現代心理学部に映像身体学科があることから AV 資料が充実していることも新座図書館の特徴のひとつである。また新座 3 学部との連携により、池袋図書館に先駆けて学習支援スペースを整備し、2012 年 4 月、6 号館 2 階部分に「しおり(新座図書館ラーニングcommons)」を開設した。

新座図書館の特徴のひとつに地域連携がある。20 歳以上の新座市在住・在勤の人の利用が可能で、キャンパスとしての地域貢献の役割を果たしている。

規模は、延床面積 3,958 m<sup>2</sup>、座席数 550 席、蔵書冊数約 22 万冊(30 万冊収蔵可能)、2011 年度は 16.5 万人の入館者と 5.4 万冊の貸出があった。



新座図書館 1 階・2 階



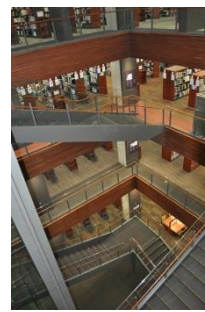
新座キャンパス



2012 年 2 階部分に新設された「しおり(新座図書館ラーニングcommons)」

# <池袋図書館 2012～ >

池袋図書館は、これまでの図書館本館、人文科学系図書館、社会科学系図書館、自然科学系図書館、メディアライブラリー等を統合した池袋キャンパスの総合図書館として誕生した。私立大学図書館としても屈指のフロア面積を持ち、所蔵可能冊数 200 万冊、座席数 1,520 席とこれまでより大幅に増え、落ち着いた雰囲気の中でフロア毎に特徴のある利用環境を用意している。

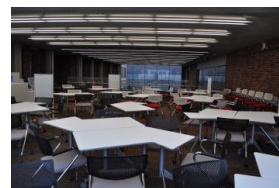


## 1 階：総合分野・授業関連図書 + <パブリックスペース>

入館ゲートを入ってすぐの 1 階エントランス部分は公共的な空間で、会話も自由にできるラーニングスクウェアとなっている。そのまま階段を上ればパソコン貸出カウンターもある。

1 階の書架には総合的な分野の図書が集められており、授業に直結したシラバス図書や立教関連図書のコーナーもある。

東側の建物は改装された 12 号館で、1 階には軽雑誌や国内外の新聞が集められて新聞雑誌ライブラリー的な空間となっている。



1 階ラーニングスクウェア

## 2 階：自然科学・技術 + <グループ利用スペース>

2 階は、自然科学、技術関係の図書が集められており、北側と南側にグループ利用の施設（グループ学習室、講習会室）が設置されているのが特徴である。また DVD などの視聴覚設備が利用でき、ラーニングスクウェア 2F ともつながっている。ラーニングアドバイザーや PC ヘルプデスクに質問や相談もできる。



2 階：各種講習会室

## 3 階：文学・言語・芸術 + <個の利用スペース>

3 階は、文学、言語・芸術分野の図書が設置されている。個人が静かな環境で集中できるように配慮されており、大学院生用の個人用キャレルも設置されている。画集や美術全集など大型本の閲覧席も用意されている。



3 階閲覧席

## 地下 1 階：哲学・宗教・歴史・社会科学 + <リラックススペース>

地下 1 階は、12 号館にまたがる広大なスペースに哲学・宗教と社会科学系の図書が配架されている。集密可動書架は「ふすま」のように片手で軽く開けられる仕組みになっている。

資料を展示するブックギャラリーの隣では、ソファに座って立教関係の資料を見ることができる。またリフレッシュルームがあり、ここでは飲食が可能である。院生用キャレルも設置されている。



B1:ブックギャラリー

## 地下 2 階：

100 万冊収蔵可能な「自動書庫」があり、主に出版年の古い資料や洋雑誌バックナンバーを地下 1 階から地上 3 階まで全館のカウンターに自動搬送し供給している。12 号館側地下 2 階には、「製本和雑誌」や「選定旧分類図書」「新聞縮刷版」などが所蔵されている。



B2:自動書庫:100 万冊収蔵可能